

令和2年度 社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、例年になく対応を迫られた1年となりました。

今後、長期化するであろう新型コロナウイルス感染症対策の利用者、児童、職員等への影響が危惧されるところであり、1日も早い利用者、職員等へのワクチン接種が待たれるところです。琴清苑新築工事については予定どおり落成し、「全従来型個室96名定員、中規模防災拠点型地域交流スペースを備えた施設」の運営展開について、利用者、地域住民の皆様方に喜んでいただけるよう努めて参ります。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で88.9%、琴清苑で92.9%、短期入所事業では寿楽荘52.0%、琴清苑6.4%という結果であり、前述した感染症対策の影響により大幅に落ち込んでいることと、入所に対して慎重にならざるを得ない事態となっています。他にも入所待機者の著しい減少、要介護度の制約、職員の就労環境問題、身体拘束ゼロ等課題となっています。また、看護・介護職の人材難が深刻であり、知恵をしぼり雇用対策の強化を図っているところです。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果により園児数は増加傾向にあるものの、感染症対策の対応に苦慮した一年となりました。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の周知徹底に努めました。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ新型コロナウイルス感染症ワクチン接種、PCR検査等を含め体制強化を図って行きます。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度も引き続き経営の安定化「経営コストの見直し」「診療所の環境改善」に努め、コロナ感染予防対策を日々検討して、社会情勢に合わせスピード感を持って職員一同対応に当たった。令和元年度より感染予防対策として行っているスリッパへの履き替え廃止などが、このコロナ対策としても有効的であった。また、消毒に関しても、診療所内で次亜塩素酸水の生成を行い、消毒液の不足が起こることのない安心・安全な対応に努めた。

職員は継続的な感染予防と自己管理という緊張の中、長期に渡り感染予防に努め、地域における双葉会診療所としての医療提供を死守する事に努めた。

経営状態は、常勤医師1名、非常勤医師3名(月計4名)となっているが常勤医師は、多くの委託業務を抱えており、医師の確保は引き続き必要と考えられる。

入院においては、コロナ感染予防などの影響で、稼働率は下がっているものの、入居者の重症化により収入は増っており、医師の尽力と職員の工夫で診療所の経営を支えている。

外来診療においては、患者数の変動は少ないが、前年比で一人単価の変動が見られた。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

新型コロナウイルス感染症の影響により事業活動全般が消極的な年度となってしまった。新規入所者の受入れが思うように捗らず、稼働率の落込み・減収は著しく大変厳しい状況にあると認識している。感染有無確認期間を経て一般居室へ移動するシステムを維持しながらの稼働率の確保は、職員にも利用者にも負担は大きいがワクチン接種が普及するまではやむを得ないと考えている。

職員の感染者が無かったため当然利用者にも感染は無く令和2年度を終えることができたが、今後も感染しないとは限らないため、職員にはストレスとなるが社会福祉施設の従事者として不要不急の活動は控えてもらうことを継続する。そのような中で陰圧装置を補助金により設置できたことは万一の備えとしては心強い事業となった。また、防護衣の着脱訓練や汚染ゾーン・非汚染ゾーンの対応等、職員の教育は今後も継続し、こちらも万々に備えたい。

令和 2 年度最大の課題は、身体拘束・利用者虐待問題であることは明確であり、年度末に奥多摩町へ提出した改善計画に則り今後少なくとも 1 年 6 か月を要し、利用者・ご家族、地域の方々の信頼回復に努めたい。

新型コロナウイルス感染症変異株の影響により、本来令和 2 年度中に来日・就労開始予定であった E P A 介護福祉士候補生及び技能実習生に関しては、いまだ具体的来日日程が定まっておらず、かかる経費としては非常に厳しいものもあるが人材紹介会社も視野に職員確保に努めたい。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

令和 2 年度は琴清苑の新築建て替えと、新型コロナウイルス感染症の流行への対応を行った 1 年でありました。琴清苑の新築建て替え工事が、今年度から具体的に始まり完成しました。この 1 年の工事に関する計画の進行に多くの労力が注がれましたが、年度末の 1 月には工事が終了し、引き渡しが行われました。関係された行政や、地域住民の方々には感謝申し上げます。次年度は新しい施設で利用者、職員一同新たな気持ちで事業を進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症につきましては運営面、収入面で施設運営に大きな影響を与えました。度重なる緊急事態宣言発令により、入所制限や面会制限が実施され、稼働率の低下とそれに伴う収入の減少が起き、苦しい運営になってしまいました。具体的には稼働率が 92.93%と施設開設以来最低の数字が出てしまいました。前年度の 93.97%より 1%低くなってしまいました。原因としては新規施設へ経済的理由により移動できない利用者が 5 名転居され稼働率が低迷する事態となりました。コロナウイルス感染症対策として、入所後に 2 人部屋を個室扱いにして一定期間の観察期間を経て多床室に移動することにより、施設内へにコロナウイルス侵入予防対策を徹底して行いました。施設入所期間が延びることによりさらに稼働率が低迷しました。次年度からは個室でのケアになる為、計画的な入所を進め稼働率を回復してまいります。ショートステイにつきましてもコロナウイルス感染症対応で 4 月に受け入れをしてから年間を通じての利用がなく、6.39%と非常に少ない利用率となりました。

利用者の生活上にストレス、利用者家族のストレス、職員の苦労等、多くの問題が引き続いております。予防接種の進捗状況を見ながら解決してまいります。

新しい施設への移転の為に業務内容の変更を行う事につきましては、最終第 4 半期にどうにか新しい業務内容への変更をし始め、次年度以降へ引き継ぐことが出来ました。

次年度からは収支の健全化と運営が軌道に乗るように努力してまいります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

令和 2 年度は、コロナ感染対策を徹底した保育となりました。特に、幼児クラスにおいては園児数が少ない為、縦割りとなっていた保育を廃止して、年齢毎の保育に切り替えました。しかし、国の職員配置基準を満たす為には人件費の負担増となる為、職員で出来る事の見直しを図り、外部委託の見直しと、事業・事務費のコスト削減に取り組みました。また、長年改善計画(案)として現場から意見が上がっていた「乳児クラスの手洗い場」を「コロナ対策包括事業補助金」を利用して構築し、感染予防に努めました。

職員の意識改革として、過去の振り返りではなく、過去の積み重ねから、「どう未来を構築するか」に考え方を考える様に取り組みました。会議の度に「昔は」「今までは」「うちの施設は」と言うフレーズが聴かれ、外部を経験してきた職員が意見をしにくい環境がありました。まず、今年度は多くの意見を出し合い決して否定せず、役職・年齢を問わず肯定的に議論するように心がけました。職種を問わず意見を出し合うことで、コロナ禍であっても対策・対応が練られて、多くの行事を実行することが出来ました。

運営状況では、感染予防を第一に予算の執行に努めました。

施設整備では、保育倉庫の老朽化の為、新倉庫を構築し、空いたスペースを職員駐車場としました。